

校訓

勤 協 誠
勉 和 実

明治の時代から連綿と続く茨城女子教育の中核、大成学園が創立100周年を迎える。同学園は「誠実・協和・勤勉」の建学精神に基づき、繊細な感性や内に秘めた力強さを大切にしたい。女子教育に先鞭を付け、実践してきた。大きな包容力とまっすぐな力強さで知識を人々に役立てられる人間、社会に貢献できる人材を育くんできた。女性が女性であることの素晴らしさを改めて認識し、自分や人々の幸せに最大限の能力を発揮できる女性の育成。大成学園は次の100年への一歩を踏み出した。

新たな世紀へ飛躍

教育機会の拡大に貢献

茨城県知事 橋本 昌



この度、学校法人大成学園が創立100周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。大成学園は、本県における女子教育の先駆けとして、明治42年に大成裁縫女学校を創立して以来、「誠実・協和・勤勉」の校訓のもと、社会に役立つ女性の育成に邁進され、

県民の教育機会の拡大に大変重要な役割を果たしてこられました。これまでに、5万余名の有為な人材を輩出され、卒業生の多くの方々が、教育や医療、福祉等の分野をはじめ、各方面でご活躍されているところであります。これらで関係者の皆様のご尽力に対しまして、深く敬意を表する次第であります。この度の、創立100周年を機に、大成学園茨城女子短期大学、大成女子高等学校、大成学園幼稚園が、県民の皆さんの期待に応えられる学校として、今後、ますます発展されますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

気品と強さ備えた花に

参議院議員 岡田 広



大成学園の創立100周年を心からお祝い申し上げます。国や自治体において男女共同参画社会の推進にむけた取組が行われておりますが、貴学園では創設当時の明治時代から現在までの永

きに亘り、現代社会を見据えた女子教育を続けてこれられ、100年という輝かしい歴史を築いてこられたことに心から敬意を表するものであります。近年、少子高齢化が進み、社会構成が多様化する中、女性が社会参加・活躍できる環境づくりや人材育成教育は今後の日本を文をなす意味でも重要なことであると考え、後継者の継承・キヨ先生の建学精神のもと、学童の「撫子」のような気品と清純さを備えた花がこれこれらも咲き誇ることを期待してやみません。

有為の人材育成に期待

水戸市長 加藤 浩一



このたび、大成学園が創立100周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。貴学園は、創立以来1世紀にわたる「社会に役立つ女性」の育成に専念し続けて来られました。大成女子高等学校に続き、茨城女子短期大学、大成幼稚園を設立し、特色ある専門

教科を設置され、「誠実・協和・勤勉」の校訓に基づき、温かくきめ細やかな教育により、これまで多くの卒業生が各分野において活躍されておりますことは、誠に嬉しいことと存じます。この輝かしい伝統のもと、今後も、創立者の精神を受け継いだ教育活動を実践され、時代の変化に的確に対応できる、有為の人材を育成されますことを御期待申し上げます。

歴代の教職員の方々をはじめとする、関係各位の御努力に深く敬意を表しますとともに、これからもますます発展されますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

教育振興に大きな足跡

那珂市長 小宅 近昭



このたび、学校法人大成学園が創立100周年を迎えられたことは、誠に心からお慶び申し上げます。貴学園は、昭和42年に茨城女子短期大学、昭和46年には大成学園幼稚園を那珂市東本町の地に設立以来、本市の教育振興のため大きな足跡を残されました。これらひとえ

に、額賀理事長はじめ、関係者の皆様の並々ならぬ努力の賜物であり、衷心より敬意と感謝の意を表するものであります。現在、本市は、第一次那珂市総合計画の将来像を「人にやさしく文化の香り高いまち」とし、基本計画の柱の一つに「豊かな心と文化を育む教育のまちづくり」を掲げ、個性と創造性を育む学校教育の充実をめざしており、貴学園に大きな期待を寄せているところであります。

結びに、学校法人大成学園が輝かしい歴史と伝統を引き継ぎ、今後ますます発展されますよう心よりお祈り申し上げます。私のお祝いの言葉とさせていただきます。

校史100年茨城の誇り

茨城県私学連合会会長 廣瀬 和喜



このたび、学校法人大成学園が創立100周年を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。本園が、県内「最古」の私立学校として歴然と

輝く「校史」は、本県の誇りであります。建学の精神である「誠実・協和・勤勉」の3つの柱こそ、永遠に求められている実践倫理の中核でもあります。卒業された5万余名の方々が、これらの精神を我がものとして「社会に役立つ女性」として貢献されて参りましたことに、敬意を表したいと思います。

本園が歴史と伝統を堅持され、私学のリーダーとして益々発展されますことを願い、祝辞とさせていただきます。

礼法重視の教育今後も

小笠原 清忠



ご創立100周年の節目の年をお迎えになられましたこと心よりお慶び申し上げます。明治42年大成裁縫女学校を開校されると同時に、女子学習院、東京高等師範学校（現お茶の水女子大学）、共立女子職

業学校（現共立女子大学）に伍して小笠原流礼法を正統として取り入れられたことは、創立者の額賀三部・キヨ先生が、江戸から明治という身分社会の崩壊の中で如何に多くの方々に礼法を普及させるかに力を注いだ二八八小笠原清勝の考えに共感されたことに基づくものと思えます。戦後60年を経た今日、子供達の作法の乱れに対して、形式的な作法教育が多々見られる中で、確とした礼法の基本に基づいた指導とこれからの継いで行っていただきたいと存じております。

発展へ一層のご指導を

大成学園創立100周年記念事業委員会委員長 安達 一枝



大成学園の創立100周年を心よりお慶び申し上げます。県内に最も伝統ある私立学校の関係者として、私どもは、この100年の歴史を顧み、あるべき学園新世紀に向けてますますの発展を

期し、同窓会、後援会、父母の会、学校が一体となり創立100周年記念事業委員会を組織し、各種記念事業を計画いたしてまいりました。2006年5月の発足以来現在まで、様々な方々のご意見・ご要望に耳を傾け、また、それぞれの思いを汲み取りながら会合を重ね、ここに記念式典の佳き日を迎えることとなりました。

これまでも、多くの皆様より賜りましたご厚情に対し、厚く御礼申し上げます。今後とも、本学園発展のためご指導を賜りますようお願い申し上げます。

女性であることの素晴らしさ 次の100年も伝えていきたい

茨城女子短期大学

1965（昭和40）年6月より開学の準備を始め、当時の那珂町地の好意により17日4中学校跡地を確保し、67年5月開学した。開学当初は、学生運動の光が見え始めたころであり、また物価高騰も目立ち、地方から東京の大学にわが子を進学させることについて、保護者の不安と負担が募り始めた時代でもあった。そういう状況から、身近に短大設立の要望は強く、また、大学のマンモス化が全国的となり、弊害が指摘され始めていた。大学の規模を比較的小さく抑えることで学生と教授が親しく交流し、青年前期という難しい時期の教育を十分に行い、保護者の要に応えられるような場として新設短大は構想され、設立にいった。

学生と教授 緊密に交流



は、教育基本法および学校教育法に従い、広く知識を授け、び保育に関する専門の学芸を、教授研究し、知的徳徳の養成と、理想的な人間を育成すること、知性に富み豊かな情操を備えた女性の育成を目的とする。とある。本学が追求する。この経緯は社会としても大いに役立っている。専門研究「茨城女学」を年1回発行し、文学をさまざまな角度から見つめ、直ち機会を提供でき、さらに資格取得できるが、さらに専門科に進学するが、さらに1年間て介護福祉士の資格も取得可能となっている。

大成学園幼稚園

大成学園幼稚園は、茨城女子短期大学の保育科学生の教育実習先として、1971（昭和46）年開園した。短大教師の専門的・専門的幼稚園教育の実践的知識が、一体となり、常時体制に即して教育が行われている。同園では、教師十通の画一的な教育ではなく、物事をみずみずしい感性で受け、考え、学び取って行っている。これを主として、意欲や創造性を大切に、一人ひとりの個性や発想を未来につなげる保育を目標として、子供たちと共同目標で物事に処する。と同時に、適切なアドバイスや安否確認を徹底し、子供たちが伸び伸びと安心して遊ぶことのできる環境を整えている。

近隣の高校生や中学生の体験学習を積極的に受け入れ、地域に根ざした交流

個性や創造性を大切に



は、小鳥や野の草花を見ることができ、豊かな自然に恵まれた環境は、子供心を大きく育むことができる。思い切り体を動かせる特の遊び場は、バランスのよい人間性を身に付け、くむ。体育専門の指導者による幼児・児童のクラブ・ネイティブ・スピーカーによる英語のクラブ・スズメに30分ずつ取り入れ、幼児の発達と必要に性に応じたプログラムを実施している。預かり保育、給食・スクールのバスも充実。満3歳になつた時点で受け入れも可能で、私立幼稚園就園奨励補助制度も受けられる。

大成女子高等学校



制服の変遷



高校時代は自分が学びたいことや将来を構築する大切な時期。学園だけでなく、行事や校外活動、ボランティアなどに積極的に取り組むことをとおして、自分が社会にどう貢献できるかを考える機会を持つことで、人として大きく成長するために大切となる。

大成女子高等学校は、1907（明治40）年、額賀三部・キヨ夫妻によつてその前身の裁縫科が水戸市烏見町に開かれた。初年度の在籍は8人だった。しかし2年後には茨城県下初の私立裁縫女学校となり、徐々には規模を拡大、設立当初の女子教育に求められていた初裁縫など、いわゆる「良妻賢母」となる技能だけでなく、女子にも普通教育などの機運となり、1919年には水戸市大成女学校に改組。昭和になると大成高等女学校を設け、日本最初の保育士・豊田美雄（三）氏が同校の教壇に立つたのもこのころ。

現在の大成女子高となったのは1948年の学制改革のとき。3年後には学校法人大成学園の経営に移り、1989年に茨城女子短期大学を開学し、ほとんど幼稚園を設け、このまでに集った生徒は4万人を超え、県内でも最も歴史ある私立学校として100周年を迎えた。創立以来、誠実・協和・勤勉の校訓のもと、「社会に役立つ女性の育成」という確固たる女子教育方針を貫き、伝統を受け継ぎながら、常に時代に即した教育を行ってきた。

額賀修一校長は「本校は、時代の流れを敏感に感じ取り、その時々における新しい女性の幸せな生き方、目標を提案し、それを具現化するための教育活動を展開してきた学校です。女性が自身の生き方を深く考え、目の前のことに誇り、志をきかけ、それを伸ばし、将来社会で活躍するための準備をしっかりと固めていくことができる学びの場として本校があります。生徒には、本校のこういう環境を十分に活用してほしいです」と大成の歴史を振り返りながら話す。

女子校だからこそ「女性としての素養を身に」ここに希望を取り組み、社会への一歩を望ましい形で踏み出す準備ができる。同校はそのためにさまざまな教育プログラムを組み、教職員を充実させてきた。創立100周年を迎えるあたり、同女子高は次の教育目標を掲げている。

「多様化する社会に貢献できる自立した女性の育成」「良識ある母親として地社会に融和できる女性の育成」「さらに来年度からの指導方針は「自立した女性」「一貫教育科（5年一貫教育科）の3つの学科と「小笠原流礼法」「キャリアデザイン」「英語コミュニケーション」の3つの教育プログラムが運動する力の力、チームが組まれ、T-12 Pro

普通科は、習熟度別授業が展開され、誰もが勉強を好きになり学ぶ上を実感できるように、現在よりもさらにきめ細かな学習指導が行われる。また、個々の適性や将来への希望をかなす事ができる選択授業を設定する。離開大学等へ進学し、専門性を高め、新時代を力強く生かしていく女性の育成を目指す。これらは一貫した理念の一部を受け継ぎ、創造力を最大限に活かす家政科は、生きる技術を生み出し、人と幸せを分かち合い、社会に貢献できる女性を育てていく。これは不変だ。専門家による被服・調理・保育等の資格・実習を中心に、最上位の資格試験受験・コンテスト出場等に向けた指導が行われる。確かな技術力に裏付けされた、感性豊かな女性の育成を目指す。

看護科は、高等学校看護科（3年）と専攻科（2年）を合わせた5年一貫教育による看護師養成課程。修了すれば「看護師国家試験」受験資格を得て、資格を最も短期間で取得できる。また、毎年9月の文化祭「撫子祭」はゲームや実験と参加型アクティビティが楽しめる。毎年クラスや部活動、各学科から約100の展示や発表がある。大勢の生徒の家族や近隣の園児・児童などが来校し、「一言で言えば、素直で明るい子」ともたらし「額賀先生のパフォーメン」に盛り上がるという。

高校時代は自分が学びたいことや将来を構築する大切な時期。学園だけでなく、行事や校外活動、ボランティアなどに積極的に取り組むことをとおして、自分が社会にどう貢献できるかを考える機会を持つことで、人として大きく成長するために大切となる。

時代に即した学びと成長の場



学校沿革

■私塾時代	1907(明治40)年12月	初代校長額賀三部・キヨ夫妻、茨城県水戸市烏見町に裁縫塾を開設
1908(明治41)年 4月		水戸市藤坂町に移転
■大成裁縫女学校時代	1909(明治42)年 4月 3日	大成裁縫女学校(本科・専科・家政科)と改称し、茨城県下初の私立女学校として開学
■水戸市大成女学校時代	1919(大正 8)年 9月	大成裁縫女学校を水戸市大成女学校と改称
■大成高等女学校・水戸市大成女学校時代	1929(昭和 4)年 4月	大成高等女学校を併設
1944(昭和19)年11月13日		茨城県津207号をもって看護婦養成所に指定
1945(昭和20)年 7月 4日		財団法人大成高等女学校の経営となる
1945(昭和20)年 8月 1日		空襲により全校舎を焼失
1945(昭和20)年11月		旧37部隊兵舎を仮校舎として授業を再開
■大成女子高等学校時代	1948(昭和23)年 3月	学制改革により大成高等女学校(普通科・家政科)を大成女子高等学校と改称し、大成女子中学校を併設
1950(昭和25)年 2月28日		大成女学校廃止
1951(昭和26)年 3月 3日		学校法人大成学園の経営となる
1953(昭和28)年 2月13日		初代校長額賀三部逝去
1954(昭和29)年 7月 2日		大成女子中学校廃止
1965(昭和40)年11月19日		額賀キヨ・文部大臣より教育功労者として表彰
1966(昭和41)年11月 3日		名誉校長額賀キヨ・勲五等に叙せられ宝冠章を授与
■茨城女子短期大学・大成女子高等学校時代	1967(昭和42)年 4月 1日	茨城女子短期大学(文科・保育科)を開学
1967(昭和42)年 8月 1日		名誉校長額賀キヨ逝去
1968(昭和43)年 6月26日		学校長額賀修一、教育功労者として藍綬褒章を授与
1969(昭和44)年 4月 1日		大成女子高等学校に衛生看護科を設置
■茨城女子短期大学・大成女子高等学校・大成学園幼稚園時代	1971(昭和46)年 4月 1日	大成学園幼稚園を開園
1977(昭和52)年 3月		副校長額賀阿や子・勲五等に叙せられ瑞宝章を授与
1977(昭和52)年11月 3日		理事長額賀修一、勲四等に叙せられ旭日小綬章を授与
1990(平成 2)年 4月		茨城女子短期大学に専攻科を設置
1992(平成 4)年 4月		大成学園幼稚園を2年保育から2・3年保育とする
2002(平成14)年 4月 1日		茨城女子短期大学において文科科が廃止され、国文科に統合
2002(平成14)年 4月 1日		大成女子高等学校に5年一貫教育の看護科を設置
2002(平成14)年 4月29日		理事長額賀良一・勲四等に叙せられ旭日小綬章を授与
2006(平成18)年 4月 3日		大成女子高等学校が文部科学省より、平成18～20年度スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール(SELHI)に指定
2009(平成21)年 4月 1日		同様に平成21～23年度「英語教育改善のための調査研究」事業の指定校となる
2009(平成21)年 7月11日		学園創立100周年記念式典

大成学園創立100周年を
心からお祝い申し上げます

大成女子高等学校後援会
大成女子高等学校父母の会
茨城女子短期大学父母の会



TAISEI GAKUEN

http://www.taisei.ac.jp/

学校法人
大成学園

茨城女子短期大学

〒311-0114 那珂市東木倉 960-2
TEL029-298-0596 FAX029-298-0596

大成女子高等学校

〒310-0063 水戸市五軒町 3-2-61
TEL029-221-4888 FAX029-228-2850

大成学園幼稚園

〒311-0114 那珂市東木倉 960-2
TEL029-295-1288 FAX029-295-8443